

BUNDAI.OITA



特集

「地域のために、地域と共に」



地域を元気に!

豊後大野市三重町駅前の 交通まちづくり プロジェクト

with
豊後
大野市



担当教員



大井 尚司 教授
経済学部 経営システム学科
大学院経済学研究科

専門分野は交通経済、観光、地域交通計画など。旅行会社、国土交通省外郭の研究所への在籍経験があり、九州各県の行政からの研究依頼多数。先日、三重総合高校との高大連携の取り組みが日本モビリティ・マネジメント会議のマネジメント賞を受賞。



姫野 由香 助教
理工学部 創生工学科 建築学コース
建築・都市計画研究室

専門分野は建築・都市計画。市民参加による市街地再生や景観・拠点整備計画、観光まちづくりが主な研究テーマ。都市部から離島、中山間地域まで幅広い地域の持続可能性について行政や企業と連携しながら研究を続けている。

— 学部の枠を超え、文理融合で挑んだ地域づくり —

豊後大野市では今、JR三重町駅前の活性化を目指して検討が進められている。かねてから地元の自治組織らがありそのあり方が模索されていたが、2020年度、学術的研究を通じたブレイクスルーを求められ、経済学部の大井ゼミと理工学部の姫野ゼミがこれに参加することになった。交通論を専門とする大井教授は、2009年から豊後大野市の公共交通とバスの利用促進プロジェクトに関わっている。そして都市計画の受託研究に豊富な経験がある姫野助教も、同市より都市計画マスタープランや三重町駅前通りの再編計画の検討を委託されていたことから、互いの得意分野を持ち寄り文理融合で通りの活性化を検討す

ることになったのだ。

JR三重町駅前に伸びる県道は、国道に抜ける幹線道路として、また住民の生活道路として大きな役割を果たしている。一方で周囲の商店街には空き店舗も目立ち空洞化も進んでいる。プロジェクトの目的は、地元住民を含むステークホルダーに対して合意形成を図り、具体的な事業計画を示すこと。まずは、そのための意見をヒアリングする6回のワークショップが、両ゼミの学生と三重総合高校の高校生を巻き込んで開催された。そして最終的には、実際の県道への歩道仮設、まちなかでの居場所づくりの提案といった社会実験も行われた。

多くの学生から聞こえてきたのは「合意形成が難しい」という声だ。都市計画の現場では、100人100通りの意見があるのは当たり前。しかし姫野助教は「議論の中に学生が入ることで大人たちは理性を持ち、建設的な意見を出してくれます」とメリットを語る。

地域での学びは 最大の強みになる

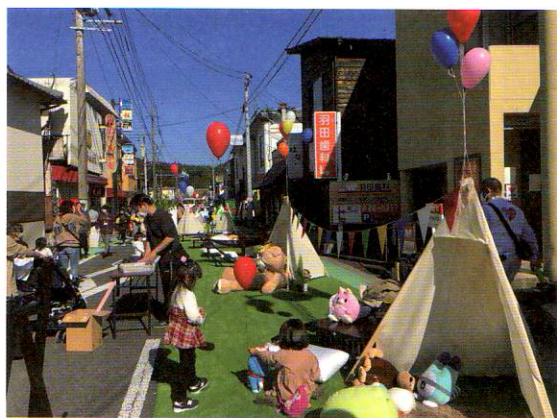
「地域に出ていけないのは、学生にとっても研究者にとっても、



もったいないことです」と熱を込めるのは大井教授だ。地方は都市部から中山間地域、離島までに潜む多様なシーズに恵まれている。姫野助教も「いくら知識・情報量があっても現場では使えないことが多い。我々も学生もそこで自分の未熟さや得意分野に気づくことができます。地域に習うのです」と言う。

さらに大井教授は、地域での経験は学生の社会人基礎力を育むとも言う。「今、就職活動で自己PRに苦勞する学生が少なからずいます。何かをしたと自信を持って言える経験がないからです。また、企業はアルバイトやサークルからではなく学問ベースの経験を求めている。その点、地域に出た学生は、それを最大の武器にして堂々とアウトプットできるのです」。

地域の課題を解決していくには、連携が必須。そのための人材育成にも取り組んでいきたいと、2人は最後に共通の展望を語ってくれた。



豊後大野市・三重総合高等学校・ぶんごおおの未来カフェと協働した社会実験の様子。片側一車線の道路の一部に芝生を敷くなどして設けた歩道に賑わいを創出した

参加した学生の感想

森木 龍介さん
博士前期課程 工学専攻
福祉環境工学 建築学コース 1年

コミュニケーションが得意ではなく、殻を破ろうとプロジェクトに参加。上手にファシリテートできるよう努力したい! そのほか、竹園町で移住者とまちづくりの実態を研究しています。

松倉 光希さん
博士前期課程 工学専攻
福祉環境工学 建築学コース 1年

まちづくりには多様な人が関わっており、その意見をすり合わせる難しさを実感しました。長崎県の離島出身。これからも地域の繋がりを残していくための手法を研究していきたいです。

横田 彩夏さん
理工学部 創生工学科 建築学コース 4年

やりたいことを素直に提案できる高校生に対し、大学生はより専門的な角度から意見が言える。その視点の違いが面白かったです。佐伯市の豊南高校跡地の再活用方法を検討する事業にも携わっています。

佐々木 美祈さん
理工学部 創生工学科 建築学コース 4年

社会実験中、研究室で焼き芋を焼いていたら新聞紙が足りなくなって。すると、地元の人が連携プレーで調達してくれました。すぐに助け合えるそういう繋がりが、地域らしい魅力だと感じました。